



夢ある将来への計画

第5章 働く人々が充実する産業のまちづくり

働く場所、自分を活かせる職場の創造に努めるとともに、人を優しく受け入れられるような寛容な地域をつくり、都会からのUターン・Iターンの希望者の定住化に取り組み、人の流入による交流の広がる町づくりを目指します。

町外からの人材の流入は、地域に新鮮な刺激になるとともに、人口の増加は集落や地域の活性化が期待できます。

長期間にわたる、農村から都市への人口集中と国際化の流れにより、農業後継者不足は、集落そのものの存続に関わる深刻な状況にあります。

農業を守り、耕作放棄地の拡大を防ぐために、地域の実情に即した農業のあるべき姿を真剣に検討しなければなりません。

農地の流動化を進めて経営規模の拡大と新規参入を含めた担い手育成に努めます。

集落や地域の実態に合った農作業の受委託組織や集落営農組織を育成し、農村振興公社との連携を図りながら、農業生産経費の抑制した健全経営が可能な法人化を進めます。

一方、農地の多面的機能と、農業農村の持つ心を和ませる風景を大切にするなどの配慮にも努めるとともに、安定的な農産物の供給と国土・環境の保全の両立を目指し、将来にわたり持続可能な農業生産活動が行える条件を整備しなければなりません。

農林業の担い手確保と、効率的で安定した農業経営体の育成、地域特性を活かした農業生産物の流通体制の整備を行い、町内施設を連動させた戦略的観光農業や企業誘致による就労機会の確保など、勤労者の生活支援に努めます。